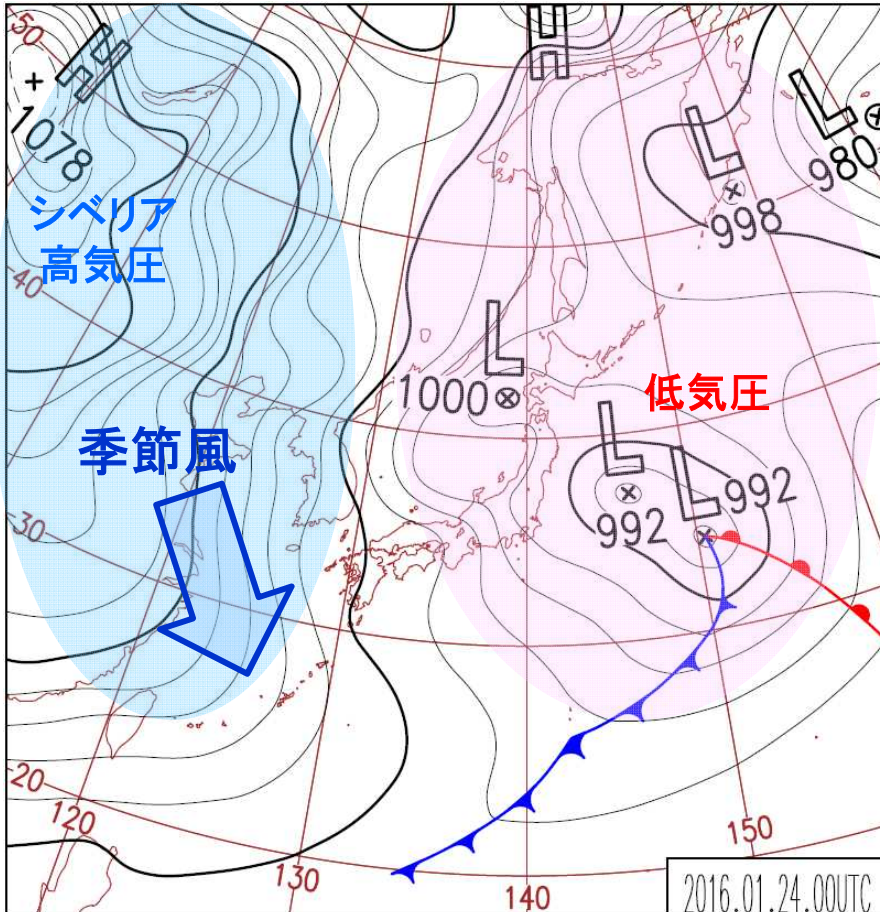


コラム④：シベリア高気圧と季節風

冬になると、西高東低の気圧配置となります。これは、冬期に典型的に現れる気圧配置であることから、「冬型の気圧配置」とも呼ばれます。沖縄付近に注目すると、シベリア高気圧が東シナ海付近まで張り出します。このようなとき、東シナ海から沖縄付近にかけては強い季節風（北寄りの冷たい風）が吹き続きます。この季節風は、暖かい海水の上をわたってくる間に水蒸気の補給を受けるため、沖縄地方は曇りや雨の日が多くなります。

平成28年1月24日9時



地上天気図(平成28年1月24日)



気象庁マスコット
キャラクター
はれるん



低温障害を受けた、にがうりの葉
(平成28年1月下旬、宮古島)

沖縄地方の昨冬(2015年12月～2016年2月)は、2015年11月から12月にかけて最盛期を迎えた強いエルニーニョ現象の影響を大きく受けたため、冬の平均としては高温となりましたが、1月下旬は一時的に冬型の気圧配置が強まり、大陸からの強い寒気の影響を受けました(左図)。沖縄県内では1月24日から25日にかけて気温が平年を大幅に下回り、沖縄県内における全26地点のうち12の観測地点で日最低気温の低い方からの記録(通年)を更新しました。那覇では24日に日最低気温6.1℃を観測しました(1月としての極値を記録)。また、24日の夜遅くから25日未明には久米島と名護において「みぞれ」を観測しました。みぞれの観測は、久米島では1977年2月17日以来39年ぶりであった他、沖縄本島では1890年の観測開始以来初めての観測となりました。

この寒波の影響で沖縄県内では、さやいんげん、かぼちゃ、にがうり等、一部の農作物に被害が発生しました。

沖縄气象台提供